

『一枚の指針書 /A3版』

作成) 令和7年5月3日
改訂) 令和8年4月8日

● 自己プロフィール

会社名:特定非営利活動法人アップル・シード	役職名:代表理事 氏名:成瀬 毅	創業年2015年	写真
本社所在地 〒489-0935 愛知県瀬戸市福元町44番地			
PR(趣味・特技・座右の銘など) サンスクリット・チベット語翻訳,「たとえ100人がそうだと言っても、それが正しいということにはならない」			

● 会社概要

【業種】 障害福祉
【HPアドレス https://seed-of-apple.jp/ 】
【自社PR】 弊法人は、「障害」を「社会との関係性」と捉え、「しょうがい」と表記することもある。 そして障害福祉の仕事、社会と障害との間の「通訳」「翻訳」と自覚し、社会の物差しだけで一方的に障害を排除したり矯正・更生しないことと、逆に、障害側の論理のみを押し通して、多寡(多い・少ない、多数派・少数派)の逆転だけで解決できると幻想することもしない。 就労支援やグループホーム、余暇活動、さらにはそれらの障害福祉サービス等を利用をするため、市区町村への障害福祉サービス等の計画立案や計画更新・変更、計画のチェック(モニタリング)を行なう相談支援の事業を通して、「しょうがい」ある方の社会生活を多角的かつ重点的にサポートしている。またその考察を深め、発信や提言している。

経営理念

「納得」人生 創造企業
【想い・信条】 障害福祉の仕事を通して思うことは、社会生活上の「成功」だけに目を向けて、障害があることで人生の幸／不幸は決められないと私たちは考える。それは、貧富などの社会的格差などからも言えると思う。 単に社会競争に勝ち、富める者が幸福で、そうでない者は不幸なのか？ けっきょく、自分の人生に納得できるかどうか、そこに、人生の幸／不幸はかかっているだろうか？ 私たちはそういう考えから、アップル・シードにかかわるすべての人と、「人生の納得」について深く考えていきたい。

● SWOT分析 外部環境分析と自社事業分析から事業展開の方向(発展する方向)を考える

外部環境	内部環境
【機会】 ・「しょうがい」に起因する「生きづらさ」への世間での認識の高まり。 ・事業所指定に際して、「安易な新規参入」が防がれている。	【自社の強み】 ・自由度ある柔軟できめ細かな対応(事務的処理に尽きない)。
【脅威】 ・日本の経済状況などに応じて変化する報酬体系や社会保障制度。 ・大手コンサルによる資本家等への煽りや業界大手の挙動によって、行政は福祉の「在るべき姿」の論理を強化して中小零細がやりにくくなっている。 ・(障害)福祉財源への極右的な極端な言論。	【自社の弱み】 ・システムティックな処理。 ・メンタル不調などの利用者さんの通所に収入が左右される。

● 10年ビジョン

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の親としょうがいある子との共生型グループホームの創設(障害福祉サービスと介護保険の活用)。 ・就労継続支援B型利用者の平均工賃を倍増。 ・地域におけるメンタル課題に起因する諸問題に対して、スタッフの有資格化などによって、真に応えられる組織となっている(単なる「対応」でなく、「納得」を深めることでの「解決感」)。 ・事務局長が事務方のトップとしてバックオフィスを率いて、土業とも連携し、福祉現場と分業できている。 ・しょうがいがある／ないにかかわらず(実際にはそんなにキレイにしょうがいの有る無しを分けられないことも多く、「グレーゾーン」の領域もある)、より良い共生社会に向けて、地域で納得して共生できるよう提言・促進していける組織になっている。 ・食事・仕事・生活などさまざまな分野の内製化を進めている。

● 経営方針(経営戦略…10年ビジョンや事業展開の方向性実現の為、中期3～5年の期間で道筋を明確にする)

<ul style="list-style-type: none"> ・SNS運用などによって、広義の福祉やそれに関する社会的問題について、単なる情報だけでなく、独自の見方を発信・提言できている。 ・就労継続支援B型の<従たる事業所>で飲食業を営みつつ、自法人の福祉施設の食事提供もまかなうようになっている。
【戦略的重点方針】 ・名古屋市内の気になる地域での(メンタルなどの)課題に、相談支援と、ほかの福祉サービスなどからめて取り組んでいる。